

【全体概要】

りんどうは夏秋期の業務需要に欠かせない品目であるが、近年、物流環境の変化により流通量が減少していることから、九州内での産地化が求められている。そこで、地域の特性に応じた品種を選定し、県内全域での産地化を図ることで、マーケットニーズへの対応を目指す。

新品種・新技術等の概要

○(有)スカイブルー・セト育成品種

東北や甲信越といった冷涼な地域において普及しているが、九州では導入が制限されており、本県での生産はこれまで行われていなかった。



○耐暑性種間雑種系統

(有)スカイブルー・セトにより平成25年度に育成された系統であり、本県では平成26年度に耐暑性を確認するために試験的に導入された。



主な取組内容

【検討会の開催】

- ・実証ほ設置検討会(2回)
- ・実証ほ現地検討会(4回)

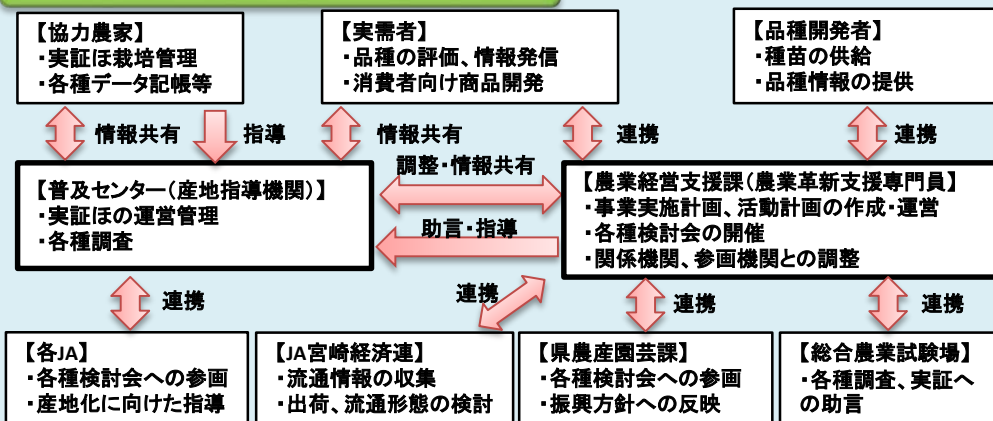
【マッチング活動の実施】

- ・市場担当者との意見交換会(2回)
- ・実需者との意見交換会(1回)

【産地・実需者の発掘調査】

- ・県内産地における導入意向調査(1回)

コンソーシアム候補の体制図



実績と今後の展開

- ・2年間の現地試験の結果により、本県がりんどう生産に適した産地であることを明らかにしたことで、中山間地域における花きの新たな推進品目に位置づけることができた。
- ・県内におけるりんどう栽培面積が
18a(H28) → 38a(H30)
に増加し、今後の生産拡大が見込まれる。
- ・九州内のりんどう供給量が減少しているという現状を踏まえて、九州一の消費地である福岡県内卸を主要出荷先に位置付け、宮崎産りんどうの知名度向上に取り組んでいく。